

道徳的実践力を高める道徳の時間の工夫
－諸行事や日常生活と道徳の授業を関連付けた授業構想の工夫を通して－

幼児教育センター

土屋 靖（小学校教諭）
小倉 正人（中学校教諭）
小林 豊（中学校教諭）
石川 重昭（中学校教諭）

I 主題設定の理由

道徳教育の充実・強化の必要性が、平成20年1月に中央教育審議会から答申された「学習指導要領等の改善について」に明記された。答申では、学校教育全体で取り組む道徳教育の要として道徳の時間を位置付け、計画的、発展的に道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深めることを通して、子どもの道徳的実践力を育成することを求めている。

今日の子どもの心は、家庭や地域社会の教育力の低下や、子どもを取り巻く環境の急激な変化などによって、その活力を弱めている傾向がみられる。

特に、地域の大人や異年齢の子どもたちとの交流の不足や少子化に伴う人間関係を築く力の低下、急速な情報化に伴い画面に向かって個にこもる商品が氾濫していることなどに起因して、「他者とのかかわり」が弱くなり、友達や仲間のことで悩んだり、学習や将来の生活に対して無力感や不安感を抱いたりする子どもが増加している。

学校生活の中でも、わざわざ相手を怒らすようなことをしたり、人に何かしてもらっても素直に「ありがとう」と言えず、ただ黙っていたりする生徒をよく目にする。そして、その結果、相手に自分の本意が伝わらず、けんかになったり、相手に嫌な思いをさせたりするなど、トラブルにつながることも多く起きている。

学校では、道徳の時間などを中心に「他者とのかかわり」を深めるための様々な授業実践が行われている。しかし、子どもたちの現状を改善するには、まだ十分とは言えない状況である。それは、①道徳の時間、子どもたちに道徳的価値を理解させるための工夫が十分講じられていない。②道徳の時間に身に付けた道徳的価値を発展させ、道徳的実践力を高めるための工夫が不十分である。③道徳の時間の授業展開の中で、子どもたちの学校内外での様々な体験を、言葉や文章を通じて、共有したり、交流させたりすることが少ない、などの理由が、その背景にあるものと考えられる。

以上のことから、「他者とのかかわり」を深めることに関して、子どもたちの「諸行事」や「日常生活における様々な体験」と「身に付けさせたい道徳的価値」を関連させながら、発問や学習活動、資料を工夫した道徳の時間を構想し実践することで、道徳的実践力を高めることができるであろうと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらいと課題解決策

手だて①～③のように、児童生徒の「諸行事」や「日常生活における様々な体験」と「身に付けさせたい道徳的価値」を関連させながら、発問や学習活動、資料の工夫をした道徳の時間を構想し実践すれば、児童生徒の道徳的実践力が高められることを明らかにする。

〈課題解決策〉

1 手だて

- ・導入における発問や学習活動の工夫

(手だて①)

児童生徒が「諸行事」や「日常生活における様々な体験」を想起できるような発問や学習活動を工夫すれば「身に付けさせたい道徳的価値」に興味・関心や問題意識をもつであろう。

- ・展開における資料の選択や提示の工夫

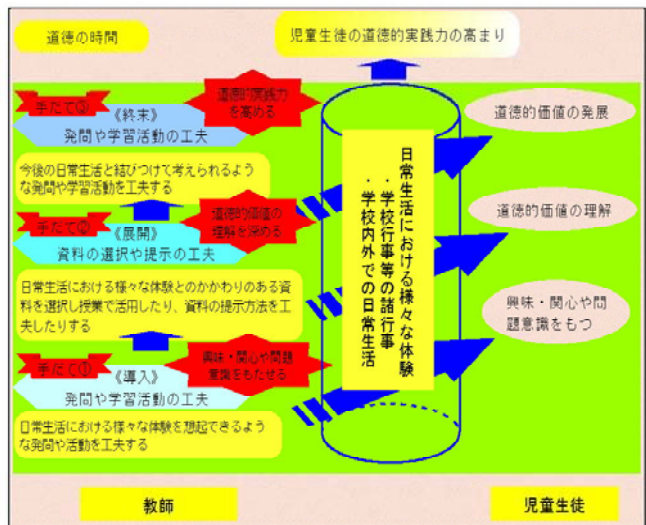
(手だて②)

児童生徒の「諸行事」や「日常生活における様々な体験」とかかわりのある資料を選択し授業で活用したり、資料の提示方法を工夫したりすれば、道徳的価値の理解が深まるであろう。

- ・終末における発問や学習活動の工夫 (手だて③)

展開の段階で理解を深めた道徳的価値を、発問や学習活動を工夫しながら、児童生徒の今後の日常生活と結びつけて考えさせることができれば、道徳的価値を発展させ、道徳的実践力が高まるであろう。

○研究構想図



2 計画

対象	小学校 5年	中学校 3年	中学校 1年	中学校 3年
主題名	温かい言葉	温かい人間愛、思いやり	温かい人間愛	人間愛、思いやりの心
諸行事や日常生活との関連	日常生活で親切にした(された)経験を振り返ること、これからの自分の在り方	1、2年生で経験をしてきた学校行事と、今後の学校生活とを関連付けて	榛名高原学校で学んだ「他者とのかわり方」と、これからの集団での自分の在り方	「体育祭」、「合唱コンクール」などの学校行事と、今後の学校生活とを関連付けて
資料について	「ぐんまの子どものためのルールブック 50」 ・導入と終末での学習活動で活用する。	「糸」(中島みゆき 作詞・作曲) ・「縦の糸はあなた、横の糸は私…」歌詞の奥深さ。 ・はじめに歌詞を読み、終末で実際の歌を聴く。	「カーテンの向こう」 ・生徒が他者を思いやることのすばらしさを理解しやすく、また、自分のものとしやすい資料を選択。	「仁という字」 ・国語で学習した孔子の「論語」を基にしている。 ・「仁」という漢字の成り立ちを考えさせた後に、資料を提示。

3 検証方法

手だて	検証の観点	検証の方法
手だて①	問題意識をもって授業に取り組めるようになったか。	発言、ワークシート
手だて②	道徳的価値を理解することができたか。	発言、ワークシート
手だて③	今後の日常生活の中で実践をしてみたいことを考え、意欲をもつことができたか。	発言、ワークシート

Ⅲ 課題解決のための具体的実践

○授業実践1 小学校5年 主題名「温かい言葉」

1 成果物の概要

(1) 手だて

- ①<導入>ルールブック50を活用してのアンケート（意識調査）や理由付けの言語活動。
- ②<展開>コミュニケーション活動（役割演技）。
- ③<終末>「私のルールブック」の作成。掲示物の工夫や通信の発行。

(2) ねらい

- ①<導入>事前のアンケートで「親切・思いやり」の価値に即した自分の経験を振り返り、自分を見つめることができるようにする。また、ルールブックの「22 困っている友だちがいたら助けてあげよう」について、その理由を10字・20字・30字で考える言語活動で、一人一人が自分の考え方・感じ方を明らかにして授業に臨むことができるようにする。
- ②<展開>日常生活の具体的な場面を想定して役割演技をする中で、言葉のもつ力や受ける印象について一人一人が実感できるようにする。
- ③<終末>授業で芽生えた心情を「私のルールブック」として表現できるようにする。また、掲示物を工夫し、学習活動を想起できるようにするとともに、日常生活での実践意欲につながることを意図して通信を発行する。

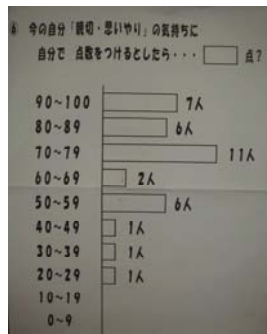
2 成果物の活用

(1) 授業の実際

- ねらい「相手を思いやり、自分から温かい言葉をかけ、親切にしようとする態度」を育てる。

	主な学習活動	指導上の留意点
導入 5 分	1 「親切・思いやり」アンケートについての結果を予想しながら、実態を知り、問題意識をもつ。	○アンケートを集計し、クイズ形式で出題し、明るく楽しい雰囲気の中で発言できるようにする。

<児童の反応>クイズを楽しみながら結果を興味深く見ていた。事前に理由付けの言語活動に取り組んだことは、一人一人の本時への関心を高め、真剣に考えようとする態度にもつながっていた。今の自分の「親切・思いやり」の気持ちに点数をつけた自己評価の結果は、問題意識をもたせる上で有効であった。



展開 30 分	2 ペアによる役割演技をする中で、「親切で思いやりがある温かい言葉がけ」について考える。	○机間巡視。支援しながら、児童の感じ方の共通点や相違点を見取る。ペア学習後に全体に広げて考えることができるようにする。
---------------	--	---

<児童の反応>「消しゴムを忘れて困っている子」とそれに気付いて「言葉をかける子」(A～Eの5通り)を演じながら、実際に感じたことを素直にメモしていた。5通りの言葉がけを「親切で思いやりを感じる」順にランキングした結果を見ると、役割演技の前後で7割の児童に変化が見られた。相手意識・目的意識をもったコミュニケーション活動（役割演技）が「温かい言葉がけ」について、より深く考えさせる上で有効であった。



終末 10 分	3 事前に考えた「困っている子を助ける」理由を見直しながら「私のルールブック」を完成させる。	○思いを素直に書くことができるように表現の仕方は限定しない。事後、一人一人に共感的・受容的なコメントを書いて返す。
---------------	--	---

<児童の反応> 事前に自分が考えた理由を訂正した児童が2割いた。本時の学習活動が考え方の変化につながったものとする。全員が、これまでの自分を振り返り「これからこうしたい」という思いを表現することができた。個に応じて共感的・受容的なコメントを書いて返し、今後の実践意欲につなげたいところである。また、学校の人権週間での標語づくりの中で、今回の授業に関連した内容の標語が数多く見られた。



(2) 児童の感想

<導入でのアンケート結果について>

- 自分と同じような子が何人ぐらいいるのか、他の子はどうかかわかってよかった。
- 「今の自分『親切・思いやり』の気持ちに点数をつけるとしたら？」というところで20～30点をつけていた子がいてびっくりした。自分にきびしいなと思った。

<役割演技について>

- 同じ言葉でも、言い方を変えると相手が思うことも全然ちがうことがわかりました。
- A～Eさんの役をとなりの友達と全部やってみて、ぼくはEさんみたいになりたいと思いました。Eさんは、相手が自分から言い出すのを待つことで相手を成長させたいんだと思ったからです。Aさんもえらいと思うけど、相手のためになっていない気がします。

<全体を通して>

- おとといスーパーで巨ほうを落とした人がいたので拾ってあげました。そうやって少しずつ助けていきたいなと思いました。
- 友だちのかなしい顔を見たくないから、ぼくは困っている友だちがいたら助けてあげたいと思いました。
- 「親切や思いやり」についてこんなに深く考えたことはなかった。「自分は友だちに親切にしているかなあ」と考えました。「今よりもっと親切にしたいなあ」って思いました。
- 助けてあげれば友達はとてもいい気持ちになれるし、もっと大事な友達になれるということがわかりました。
- 相手のことをよく考えて話をしたい。やってみて、相手の喜ぶ顔を見たらうれしくなった。
- 「人に親切にする」ってどういうことなのか少しわかりました。
- 仲のいい友達だけじゃなくて、「困ってる」って気づいたら、いろいろな人を助けたいです。
- これまで「どうしようかな」って思って声をかけられないことが多かったけど、だれにも負けないくらいやさしい人になってみたいです。
- いろいろなことがわかりました。私は自分に85点をつけたけど、自分で90点以上つけられるように、もっと友達に親切にしたいと思いました。
- 授業が終わってから、みんなの考えた理由を全部読んで、「なるほどなあ」って思いました。

(3) 児童の変容

授業後の感想とともに書いた「私のルールブック」では、日常生活の中で友達を助けている具体的な場面を想像して、文章だけでなく絵や吹き出しの言葉で表現していた児童が6割いた。また、半数の児童は、「だれかが困っていたら『自分から声をかけて』親切にしたい」という思いを書いていた。一日を振り返って書く3行日記の中で、「友達に親切にできた・友達が親切にしてくれた」という内容のものが見られるようになってきている。

○授業実践3 中学校1年 主題名「温かい人間愛」

1 成果物の概要

(1) 手だて

①導入において、生徒の身近な体験である榛名高原学校という「場」を利用し、そこで学んだ「集団生活における他者とのかかわり方や自己の在り方」を問いかけることで、他者について自分はどのようなかかわり方をしてきたか振り返ることができるようにする。

②資料については、「カーテンの向こう」という読み物資料（感動資料）を使用し、「なぜ主人公は、そのような行動を取るのか」また、「何が主人公をそうさせるのか」などを生徒に考えさせることで、他の人のことを思ってやまない、主人公の「温かい人間愛」を感じ取れるようにする。

③終末において、生徒たちが今後、集団の中で他者に対してどんなことができるか、「日常生活につながられるような工夫」を考えられるようにすることで、道徳的価値を自分なりに発展させ、今後について考えられるようにする。

(2) ねらい

生徒は、榛名高原学校での集団宿泊訓練、カッター訓練や登山、及び、室内レクリエーション等の中で、男女を問わず、他者との関係の結び方を学習した。そこから、集団で活動をするときに自分の考えを押し通したり、自分のやりたいことをやりたいようにおこなったりすれば、その活動がうまく進まないどころか、他人に迷惑をかけたり、だれからも相手にされなくなったりすることを肌で感じたはずである。そこで、授業の導入で榛名高原学校を振り返らせ、終末において、集団の中での自分の在り方を考えさせるというように、「生徒の身近な体験（場）」から道徳的価値に迫り、考える時間を十分にとることで、自分の内面と向き合わせ、自分の考えと認識を深めさせようとした。

2 成果物の活用

(1) 授業の実際

授業の導入で榛名高原学校を振り返り、そのときの自分の行動を確認した。そして、展開で資料を使用し「他者を思いやる気持ち」を考え、そこから「温かい人間愛」を深く考えるようにした。終末においては、集団の中での自分の在り方を考えることで、自分たちはいかに考え行動すべきかをとらえさせようとした。

以下に、授業の概略を示す。

【 導 入 】

過程	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点と評価の観点
導入 5分	・ 榛名高原学校で他者を思いやった行動を振り返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 榛名高原学校で、他者を思いやって行動したことがありますか。また、それはどんなときですか。(手だて①) </div>	・ 高原学校のあらゆる場面から考えさせる。

導入に、盛り上がった榛名高原学校を利用したため、生徒はその当時のことを楽しそうに振り返り、生き生きと発言していた。実際に活動してきたことから考えを巡らせたため、発

問に対しても考えやすかったようである。

そして、その結果、「カッター訓練で、速く漕ぐために率先して大きな声を出し、みんなの息をそろえようとした」など、他者に対して自分がどのようにかかわっていたか振り返ることができ、目当てをもって授業に参加をすることができた。

【 展 開 】

展開では「カーテンの向こう」という読み物資料（感動資料）を使用した。この資料は、舞台が外国であったり、多くの治る見込みのない重症患者たちが登場したりなど、生徒たちの実生活とは、ほど遠いところにある状況が描かれている。

しかし、この資料には、人知れず相手を思いやる主人公の姿が描かれている。主人公は、たとえ人から恨まれようとも、その行動をやめようとはしない。「なぜ主人公は、そのような行動を取るのか」、また、「何が主人公をそうさせるのか」などを生徒に考えさせた（手だて②）。

その結果、生徒からは、「主人公が治る見込みのないみんなを失望させないように懸命に話し続けた」などの発言があり、他の人のことを思ってやまない、主人公の「温かい人間愛」を感じ取ることができた。

【 終 末 】

終末 20分	・自分の考えをまとめ、ワークシートに書く。 ・自分の考えを発表し、共有し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;">榛名高原学校のように、みんなで活動しなければならないときに、あなたは、集団の中でどんなことができるか考えてみましょう。（手だて③）</div>	・これからの自分の行動のしかたを考えさせる。
---	--	--	------------------------

終末は、生徒たちが今後、集団の中で他者に対してどのようなことができるか「日常生活につなげられるような工夫」を試みた。その際、「温かい人間愛」についてきちんと考えられるように、20分間というゆったりとした時間を設定した。そのため、生徒は、じっくりと課題と取り組むことができた。そのときの表情は真剣そのものであり、榛名高原学校での実体験や展開で使用した資料「カーテンの向こう」の主人公の考えや行動とも照らし合わせながら、自分の考えを言葉にすることができた。

そして、道徳的価値を自分なりに発展させ、「人の役に立つこと、人を支えることを考えて、自分から行動する」など、今後について考えられるようになった。

（2）生徒の感想

今回の授業は、生徒にとって楽しかった榛名高原学校を使った授業であったため、生徒は自分の考えをもちやすく、積極的に発言することができた。また、いつも以上に真剣に授業に取り組んでいた。授業後、生徒と会話をしている中で、「今日の道徳の授業は楽しかった」と発言する生徒も現れ、生徒の心に訴えかけることができたと考えている。

（3）生徒の変容

面白半分や他者のことを考えないで発せられる心ない言葉や会話は、だいぶなくなってきたように思われる。また、若干名ではあるが、困っている他者がいると、何気なく声をかけたり、さりげなく他者の仕事を手伝ったりする生徒も出てきた。

1 成果物の概要

(1) 手だて

①導入において、生徒の身近な体験である榛名高原学校という「場」を利用し、そこで学んだ「集団生活における他者とのかかわり方や自己の在り方」を問いかけることで、他者について自分はどのようなかかわり方をしてきたか振り返ることができるようにする。

②資料については、「カーテンの向こう」という読み物資料（感動資料）を使用し、「なぜ主人公は、そのような行動を取るのか」また、「何が主人公をそうさせるのか」などを生徒に考えさせることで、他の人のことを思ってやまない、主人公の「温かい人間愛」を感じ取れるようにする。

③終末において、生徒たちが今後、集団の中で他者に対してどんなことができるか、「日常生活につながられるような工夫」を考えられるようにすることで、道徳的価値を自分なりに発展させ、今後について考えられるようにする。

(2) ねらい

生徒は、榛名高原学校での集団宿泊訓練、カッター訓練や登山、及び、室内レクリエーション等の中で、男女を問わず、他者との関係の結び方を学習した。そこから、集団で活動をするときに自分の考えを押し通したり、自分のやりたいことをやりたいようにおこなったりすれば、その活動がうまく進まないどころか、他人に迷惑をかけたり、だれからも相手にされなくなったりすることを肌で感じたはずである。そこで、授業の導入で榛名高原学校を振り返らせ、終末において、集団の中での自分の在り方を考えさせるというように、「生徒の身近な体験（場）」から道徳的価値に迫り、考える時間を十分にとることで、自分の内面と向き合わせ、自分の考えと認識を深めさせようとした。

2 成果物の活用

(1) 授業の実際

授業の導入で榛名高原学校を振り返り、そのときの自分の行動を確認した。そして、展開で資料を使用し「他者を思いやる気持ち」を考え、そこから「温かい人間愛」を深く考えるようにした。終末においては、集団の中での自分の在り方を考えることで、自分たちはいかに考え行動すべきかをとらえさせようとした。

以下に、授業の概略を示す。

【 導 入 】

過程	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点と評価の観点
導入 5分	・ 榛名高原学校で他者を思いやった行動を振り返る。	榛名高原学校で、他者を思いやって行動したことがありますか。また、それはどんなときですか。（手だて①）	・ 高原学校のあらゆる場面から考えさせる。

導入に、盛り上がった榛名高原学校を利用したため、生徒はその当時のことを楽しそうに振り返り、生き生きと発言していた。実際に活動してきたことから考えを巡らせたため、発

問に対しても考えやすかったようである。

そして、その結果、「カッター訓練で、速く漕ぐために率先して大きな声を出し、みんなの息をそろえようとした」など、他者に対して自分がどのようにかかわっていたか振り返ることができ、目当てをもって授業に参加をすることができた。

【 展 開 】

展開では「カーテンの向こう」という読み物資料（感動資料）を使用した。この資料は、舞台が外国であったり、多くの治る見込みのない重症患者たちが登場したりなど、生徒たちの実生活とは、ほど遠いところにある状況が描かれている。

しかし、この資料には、人知れず相手を思いやる主人公の姿が描かれている。主人公は、たとえ人から恨まれようとも、その行動をやめようとはしない。「なぜ主人公は、そのような行動を取るのか」、また、「何が主人公をそうさせるのか」などを生徒に考えさせた（手だて②）。

その結果、生徒からは、「主人公が治る見込みのないみんなを失望させないように懸命に話し続けた」などの発言があり、他の人のことを思ってやまない、主人公の「温かい人間愛」を感じ取ることができた。

【 終 末 】

終末	・自分の考えをまとめ、ワークシートに書く。	榛名高原学校のように、みんなで活動しなければならないときに、あなたは、集団の中でどんなことができるか考えてみましょう。（手だて③）	
20分	・自分の考えを発表し、共有し合う。		・これからの自分の行動のしかたを考えさせる。

終末は、生徒たちが今後、集団の中で他者に対してどのようなことができるか「日常生活につなげられるような工夫」を試みた。その際、「温かい人間愛」についてきちんと考えられるように、20分間というゆったりとした時間を設定した。そのため、生徒は、じっくりと課題と取り組むことができた。そのときの表情は真剣そのものであり、榛名高原学校での実体験や展開で使用した資料「カーテンの向こう」の主人公の考えや行動とも照らし合わせながら、自分の考えを言葉にすることができた。

そして、道徳的価値を自分なりに発展させ、「人の役に立つこと、人を支えることを考えて、自分から行動する」など、今後について考えられるようになった。

（2）生徒の感想

今回の授業は、生徒にとって楽しかった榛名高原学校を使った授業であったため、生徒は自分の考えをもちやすく、積極的に発言することができた。また、いつも以上に真剣に授業に取り組んでいた。授業後、生徒と会話をしている中で、「今日の道徳の授業は楽しかった」と発言する生徒も現れ、生徒の心に訴えかけることができたと考えている。

（3）生徒の変容

面白半分や他者のことを考えないで発せられる心ない言葉や会話は、だいぶなくなってきたように思われる。また、若干名ではあるが、困っている他者がいると、何気なく声をかけたり、さりげなく他者の仕事を手伝ったりする生徒も出てきた。

○授業実践4 中学校3年 主題名「人間愛、思いやりの心」

1 成果物の概要

(1) 手だて

学校生活における道徳的実践力を高めるために、学校行事（修学旅行、体育祭、合唱コンクール）と道徳の時間の授業を関連させた授業実践を行った。

思いやりをもって友達とかかわることの大切さを生徒に気付かせるために、担任が事前に「思いやり」を意識しながら各行事に取り組むよう生徒に話をしたり、各行事のあとに、生徒が記入する「振り返り用紙」の中に「思いやり」に関する設問を入れたりした。

そして、思いやりをもって友達とかかわることの大切さを知ったり、深めたりするために、各行事への取組とつながりをもたせながら、道徳の時間の授業を行った。

（手だて①）授業の「導入」では、自分が各行事に際し、友達に対して「思いやり」の気持ちをもって取り組むことができたかどうかを、振り返って想起させ、発表させる学習活動を取り入れた。

これらの学習活動を「導入」に取り入れることは、学級全体で個人の考えや意見を共有する中で共通の興味・関心をもとに問題意識が高まり、本時のねらいとする道徳的価値を深めていくのに適していると考えられる。

（手だて②）授業の「展開」では、孔子の言行録をまとめた「論語」を基にして、その章句を分かりやすい文章に翻案した物語を読み物資料として活用した。

この読み物資料は、2年生の国語で「論語」を学習していること、漢字の成り立ちを考えていくことを通して、孔子の思想の根幹である「仁」という言葉の意味を知り、「思いやり」の大切さに気付かせることができることから、生徒にとって親しみやすいものであると考えられる。よって、生徒が自分とのかかわりの中で、本時のねらいとする道徳的価値を深めるのに適した資料であると考えられる。

（手だて③）授業の「終末」では、今後の学校生活の中で思いやりをもって友達とかかわることができるよう、じっくりと時間をかけて、「思いやり」について自分の考えや思いを文章にまとめる学習活動を取り入れた。授業後、文章を学級通信に掲載することで、各生徒の考えや思いを交流させた。

この学習活動を「終末」に取り入れることで、本時の授業を通して理解を深めた道徳的価値を発展させ、今後の生徒の道徳的実践力への高まりが期待できるものと考えられる。

(2) ねらい

学校行事での自分の行動を振り返ったり、自分とのかかわりの中で道徳的価値について考えることのできる、生徒にとって身近な読み物資料を活用したりする学習活動を通して、思いやりをもって友達とかかわることの大切さについて考えさせる。


また、本時の授業を通して身に付けた道徳的価値をもとに、「思いやり」について、自分の考えや思いを、じっくりと文章にまとめる学習活動を通して、今後の学校生活での道徳的実践力を高める。

2 成果物の活用


(1) 授業の実践

過程	学習活動・生徒の様子	指導上の手だて
導入 5分	1. 友達がどんな場面で、誰に対して「思いやり」の気持ちをもって、各行事に取り組んだのかを知る。 体育祭など、2学期の各行事を振り返り、思いやりの気持ちをもって取り組むことのできた場面を発表しよう。（手だて①）	・2学期の各行事を想起して、具体的に数多くの生徒に発表させる。

「修学旅行の時に、疲れてゆっくり休みたい人のために静かにした。」など、自分の体験や経験をもとにたくさんの意見が発表された。発表された意見を学級全体で共有する中で、「本当の思いやりとは何だろう」という、ねらいとする道徳的価値を深めるための問題意識が高まった。

過程	学習活動・生徒の様子	指導上の手だて
展開 20 分	<p>2. 孔子の思想の中心となる「仁」という字のおもしろさについて考える。</p> <p>「仁」という字を、右から読んでみよう。どのように読むことができるだろうか。(手だて②)</p>  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・分からない。 ・見当がつかない。 ・二人(ふたり) </div>	<p>・多くの生徒を指名し、発言させることで、本時で扱う読み物資料「仁」という字に興味関心をもたせる。</p>

授業中の観察から、生徒は、高い興味・関心をもって、カードで示された「仁」という漢字の成り立ちを考える様子が見られた。そして、読み物資料にも親しんで触れる姿が観察できた。「一つ一つの漢字にも、いろいろな意味があり、それぞれの考え方あるんだと分かった。」とワークシートへ記述されており、この資料を活用することで、生徒は、ねらいとする道徳的価値を、自分とのかかわりの中で深めることができた。

過程	学習活動・生徒の様子	指導上の手だて
終末 15 分	<p>4. 今までの自分を振り返り、これからの自分の在り方を考える。</p> <p>残された中学校生活の中で、あなたは、クラスという集団の中でどんな行動をとることができるか考えよう。(手だて③)</p> 	<p>・生徒に考える時間とワークシートに考えや思いをまとめるための時間を確保する。</p>

「思いやり」について自分の考えや思いをまとめたり、これからの自分の在り方について考え、まとめる学習活動に、時間を充分とったりした。道徳的価値を自分なりに発展させ、「思いやりの心をさらにもって、クラスに役立つような行動をして残りの中学校生活を過ごしたい。」というような生徒の記述が見られるなど、今後について考えられるようになった。

(2) 生徒の感想(終末(手だて③)の場面で生徒が書いた感想文より)

- ・「思いやり」をもって行動することは、とても大切なことだと思った。そのことが2学期のクラスの目標(テーマ)で良かったと思う。
- ・残り少ない中学校生活で、みんなに思いやりをもって生活していこうと思います。また、学校の外に出ても、思いやりをもって他の人(特に家族)とも接していきたい。

(3) 生徒の変容

クラスの団結よりも、個々の進路目標の実現に向けて動き出す中学3年生のこの時期、とかく人間関係が希薄になりがちであるが、「思いやり」という言葉を意識しながら、互いに励まし合ったり、友達の気持ちを考えた言動をとったりする場面が、日常生活の中に見られるようになった。

IV 研究の成果と課題

1 成果

- ・自らの体験や経験を想起させることを取り入れた道徳の授業を行うことは、児童生徒が自らの体験や経験をもとにして、主体的に道徳的価値に向き合い、道徳性を高めていく上で有効であった。また、児童生徒が資料と自分の体験や経験を比較検討することができ、取り上げた内容を自分のこととしてとらえやすくなるため、共感的追求が深まり、道徳的価値の理解を今まで以上に深めていく上でも有効であった。(手だて①、②)
- ・道徳の授業の導入で行った、事前アンケートの集計結果について理由付けを行う言語活動は、児童生徒に日常生活を振り返りながら「親切・思いやり」について考えるきっかけとなり、問題意識をもって授業に臨ませる上で有効であった。(手だて①)
- ・道徳の授業の展開で取り入れた役割演技は、児童生徒が、友達への声のかけ方についての考えをより深め、その後の道徳的価値を深めるのに有効であった。(手だて②)
- ・道徳の授業の終末で取り入れた、時間を十分にとってワークシートに自分の考えを整理する学習活動や「私のルールブック」としてまとめる学習活動は、児童生徒が道徳的価値の理解をより深め、その後の道徳的実践力を発展させていく上で有効であった。
(手だて③)
- ・道徳の授業の終末で自分の考えを整理したワークシートなどをまとめて、授業後に学級通信や道徳通信として発信し、生徒たちが他の生徒の考えを共有することは、道徳的価値の理解をさらに深めると共に、道徳的価値を発展させ、その後の生活の中で道徳的実践力を高めていく上で有効であった。(手だて③)

2 課題

- ・中学校では、今回の研究で、ねらいとする道徳的価値を深めるために、主に学校行事での体験や経験とを関連付けた道徳の授業を構想し実践した。学校行事以外の何気ない日常の生活場面における体験や経験とを関連付けた道徳の時間の授業も構想し、実践していくことが、今後必要である。
- ・自らの体験や経験を想起させることを取り入れた道徳の授業をさらに発展させるためには、「導入と終末の学習活動を意図的に結び付けられるようにすること」、「一人一人が役割演技で感じたことを全体に広げる工夫をすること」、「体験や経験を想起させる際、授業のねらいに、より即したものになるよう、読み物資料や写真・映像資料などの内容を吟味すること」などが必要である。今後、一つずつ検討していく必要がある。
- ・諸行事や日常生活における体験的な活動での児童生徒の経験を生かした道徳の授業を行うためには、道徳教育の全体計画や道徳の時間の年間指導計画を見直す必要がある。道徳教育推進教員のリーダーシップのもと、今後、学校全体で取り組んでいくことが重要である。
- ・道徳的実践力を高め、はぐくむためには、家庭・地域との連携、協力も重要である。学校での道徳教育（授業）の実際を、タイムリーに学級通信や道徳通信で発信したり、地域行事へ積極的に参加したりするなど、連携、協力の方法を今後工夫していく必要がある。